

|             |             |    |     |     |       |
|-------------|-------------|----|-----|-----|-------|
| 参加した<br>コース | マイ探究コース     |    |     | 訪問国 | デンマーク |
| 学校名         | 静岡県立清水南高等学校 | 氏名 | 名倉花 | 学年  | 高 1   |

私はデンマークで2週間、「幸福が成り立つ多様な視点と社会の仕組みについて学ぶ」という探究テーマのもと探究活動を行う留学をしました。具体的には街頭アンケート、小学校、福祉施設への訪問、幸福博物館の観覧を行いました。それぞれの活動の成果をお話しします。街頭アンケートでは幸福についてのいくつかの質問に町の人に答えてもらいました。主観満足度についてはとても幸福、幸福、少し幸福、幸福ではないの中だと、幸福、少し幸福と答えた方が多かったです。幸福度ランキングが2位のデンマークも常にとっても幸せな状態ではないと知りました。目指しているのは常に幸せを感じるのではなく、満足した生活、余裕のある生活の持続だとわかりました。また、デンマークでは自己決定の文化が根付いていて、幼少期から自分が何をしたいかを聞かれ、自分のしたいことを自分で決めているとわかりました。

次に幸福博物館についてです。幸福博物館はデンマークのハピネスリサーチ研究所が作った幸福についての様々な情報が展示されている博物館です。幸福について、いろいろな視点から考え、その自分の考えをより明確にすることができました。

次に福祉施設と小学校の訪問から学んだ福祉と教育についてです。デンマークでは助け合いの文化が根付いていて自由で平等、個性を尊重するなどの福祉サービスの特徴があると知りました。教育については生徒一人一人に対しての先生の対応が手厚いとわかりました。また、学校は学ぶ場所という共通の認識があり、生徒がどうしたいかを最優先していると知りました。

次に印象に残ったエピソードについてです。小学校では一年生の授業を見学したのですが、朝の会の際に先生が生徒一人一人に放課後何をするか聞いていて、応答に対して、ヒュッグだねと返答していました。ヒュッグは居心地のいい空間という意味のデンマーク語です。ヒュッ



グの身近さを知り感銘を受けました。

私が行く前に立てた仮説と違ったところを話します。幸福度の高い国は精神疾患患者数は極端に少ないと思っていましたが、精神疾患を患う人は一定数いて、数と幸福度との関係はほとんどありませんでした。ただ、日本と明らかに違ったのは発症後の治療と周りの環境でした。そのためデンマークでは病気を患った人でも生きやすい国になっているとわかりました。そしてもう一つ、常に幸福な人が多いという仮説を立てたのですが、常に幸福ではなく少なくとも波はありますが、日常の何気ないところから幸せを感じることができる、満足できる暮らしをしていて、認識のずれを感じました。

日本の文化の紹介の活動についてです。ホストファミリーに照り焼き、お好み焼きなどの日本食を振る舞いました。浴衣も一緒に着てくれました。また、街頭アンケートのお礼の際に緑茶と折り紙を渡すととても喜んでくれました。

このような活動を通して幼い頃からの自己決定の文化が根付いているからこそ、各々の幸福の形が確立していて、自由な生き方を尊重できる手厚い社会サービスもそれを助けているとわかりました。

そして、日本とデンマークで根本的に違うのは幸福についての意識だとわかりました。幸福についての多様な情報をインプットできる社会、多様な価値観が生まれ、それを受け入れアウトプットできる社会が重要だと感じました。

今後の挑戦についてお話しします。日本の幸福度の向上に貢献したいというモチベーションを持ってこの問題に複数の視点から活動に取り組みたいです。臨床心理士になり、日本で生きづらさを感じている人と向き合い、直接的なサポートをしたい、幸福について常に考えられるような場所を作りたいと考えています。

